

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：根室地区
- 2 事例報告学校名：中標津町立中標津小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 中 山 生 欧
- 4 キーワード：地域の人材や教材を活用した教育活動

1 はじめに

中標津町は、北海道の東部、根室管内の中央部に位置し、自然が豊かで酪農が大きな産業となっている。また、北海道の町村の中では商業売り上げが非常に高く、新千歳空港や丘珠空港、羽田空港と直結する中標津空港を擁するなど管内の交通拠点としての役割ももつ町である。

本校は、中標津町の市街地にある全校児童358名の中規模校である。各学年で様々な地域に根ざした学習を行っている。ここでは、身近にある地域教材や外部人材を活用した第3学年の1年間を通して行う総合的な学習の時間の実践に絞って紹介する。

2 実戦の概要 第3学年の総合的な学習の時間「中小自然探検隊」から

根室管内は、中標津町以外は海があり酪農以外にもサケ・マスなどの漁業も大変盛んな地域である。中標津小学校のすぐ近くに、標津川に合流するタワラマップ川が流れており、昭和27年から続く北海道区水産研究所根室サケマス事業所がある。

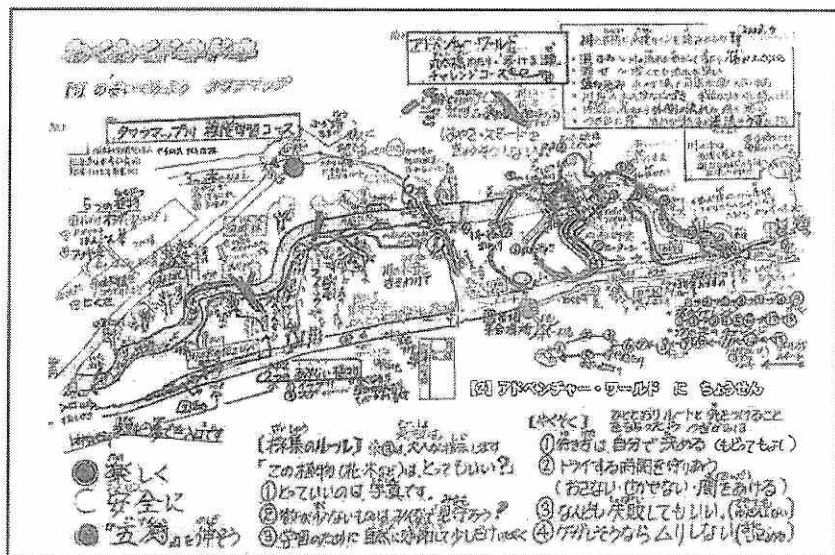
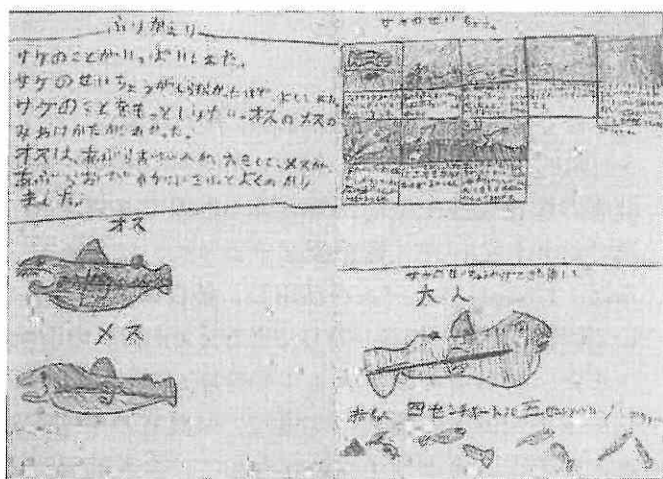
(1) 2年生での「さけ学習」を踏まえて

国語科（教育出版）では「さけが大きなまで」を学習する。並行して、隣接する「サケの町・標津町」にある実際に川に戻ってきたサケを観察できる「標津サーモン科学館」に行き、体験学習を行う。生活科の授業で、これまでの学習を踏まえ、「サケの一生」を個々人で「サケブック」としてまとめている。

(2) タワラマップ川周辺について

小川であるタワラマップ川だが、中標津小学校から歩いてすぐ近くの「さけます事業所」の周辺には、市街地とは思えない自然が残っており、9月になると産卵をするため赤くなったサクラマスが遡上してくる。

学校のすぐそばの豊かな自然を教材とし、タワラマップ川の自然に詳しい学校運営協議会運営委員の方や、「さけます事業所」にも協力をいただき、学習を行っている。



(3) 5月下旬 タワラマップ川周辺の探検1回目 「のぞいてみよう タワラマップ」

春の訪れが遅い道東で、動植物が活発になってくる5月に1回目のタワラマップ川散策を行う。タワラマップ川周辺をアドベンチャー・ワールドとして、学校運営協議会の協力により自然をなるべくそのままに、歩くルートだけを散策できるように多少の整備を行い、探検学習コースとしている。子どもたちは、この探検をととても楽しみ、2回目以降も心待ちにしている。

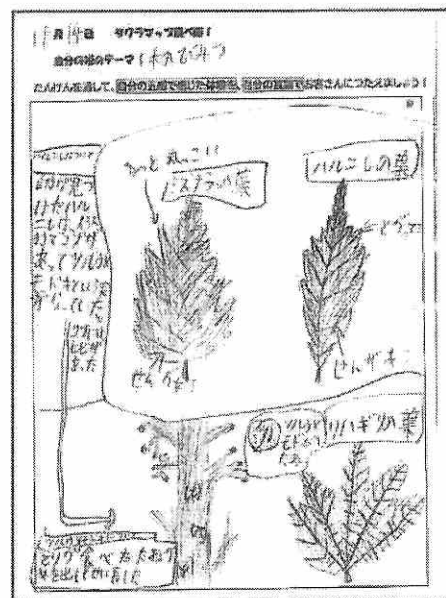


1回目の探検では、「春のタワラマップ川上流域を探検し、諸感覚を働かせて自然を楽しむ」ことを目的としている。子どもたちは川の魚や昆虫、草木やキノコ、川の水とわき水の違いなど様々なことに興味をもち課題を見付ける。

(4) 6月～10月

6月・7月の植物が大きく育っていく様子や昆虫の活発な活動など、短い夏の動植物の生き生きとしている様子を観察する。

子どもたちは、各月に行うタワラマップの散策と並行して、学校運営協議会委員から、「さけます事業所」が行うサクラマスのふ化放流についてや、川に残れなかった稚魚が、海に出て川に残ったヤマメより大きくなり戻ってくるサクラマスについても学習していく。9月、大きく成長し産卵のために戻ってきた赤いサクラマスを見ることができる。(コロナ禍前は、さけます事業所の協力で稚魚にえさやりも行っていた)力が尽きそうなサクラマスを応援する子どもも出てくる。子どもたちにとってはサクラマスの約3年間の旅の始まりと終わりを見ることができ、命の循環を感じ取ることもできる。



10月、見晴らしがよくなり、枯れた植物や種子、実などを見ることができる。

(5) 1月～2月

静まりかえった冬の探検であるが、子どもたちはシカやキタキツネなどの足跡やふんを見付け、ほ乳類の活動を感じたり、広葉樹と針葉樹の違いについて気付いたりする。

(6) まとめ・発表

個々人で課題を実際に見て体験し、調べた内容をまとめたり、類似するテーマの課題は協働してまとめたりしていく。最後に発表会を行い、学年のタワラマップ図鑑が完成する。子どもたちは、1年をかけ自分たちの住む地域の探検を楽しみながら四季の違いも感じ自分なりに課題を解決していく。

3 おわりに

酪農地帯である中標津町には昭和7年から続く雪印メグミルク工場がある。第3学年では、雪印から外部講師をお願いし、酪農や牛乳を使った産業についての学習も行っている。

地域の協力により、教科での学習と往還しながら地域の特色と魅力を知ることのできる生活科や総合的な学習の時間を行うことができている。子どもたちが、地域や社会と直接関わり、楽しみながら体験活動を重ね、自分ごととなる課題を探究のプロセスを通して調べ、まとめ・表現することで深い学びとなるのが理想と考える。

今後も、地域の方々とつながり、地域教材や地域人材を活用した教育活動の充実と改善を教職員や地域の方と相談しながら図っていきたい。